

令和3年度法務省委託事業
ハンセン病問題に関する
親と子のシンポジウム
報 告 書

令和3年度法務省委託「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」実施完了報告

1 実施概要

- (1) テーマ： ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』
- (2) 日 時： 令和3年11月13日（土）午後1時30分～午後4時
- (3) 形 式： オンライン（リアルタイム）配信
Gメッセ群馬（群馬コンベンションセンター）2階中会議室201・202（群馬県高崎市岩押町12番24号）をメイン会場として配信
- (4) 対象者： 一般市民 ※ 参加費無料
- (5) 主 催： 法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、前橋地方法務局、群馬県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- (6) 後 援： 中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、群馬県、草津町、中之条町、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、群馬県市長会、群馬県町村会、上毛新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同）
- (7) 内 容：
 - 開会～主催者挨拶
 - ビデオ上映「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」
（令和2年度法務省委託） ※ 一部抜粋上映
 - 基調講演
 - ・講演1 ハンセン病問題と偏見・差別の解消に向けて
吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会副会長）
 - ・講演2 「特別教室」の記憶を掘り起こす～重監房資料館の設立とその活動～
黒尾和久（重監房資料館部長）
 - パネルディスカッション
 - ・パネリスト
清水蒼空（群馬県中之条町立六合中学校3年）
狩野大樹（群馬大学社会情報学部4年）
 - ・コメンテーター
吉幸かおる
黒尾和久
 - ・コーディネーター
藪本雅子（フリーアナウンサー・記者）
 - トークショー「ハンセン病問題について」
 - ・ゲスト
石井正則（俳優、写真集『13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉』著者）
 - ・コーディネーター
藪本雅子
 - 閉会

2 目的

令和元年6月28日、熊本地方裁判所において「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟」に係る原告勝訴の判決が言い渡され、同年7月12日には「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟の判決の受入れに当たっての内閣総理大臣談話」が公表された。

ハンセン病元患者のみならず、その家族がおかれていた境遇を踏まえ、今後、家族への偏見・差別を解消し、家族関係が回復されていくよう社会の意識改革を行っていかねばならない。

ハンセン病問題に関する正しい知識を持ち、ハンセン病元患者やその家族がおかれている現実を理解し、その人々の人権について次世代へも継承するため、当事者の声を聴き、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。

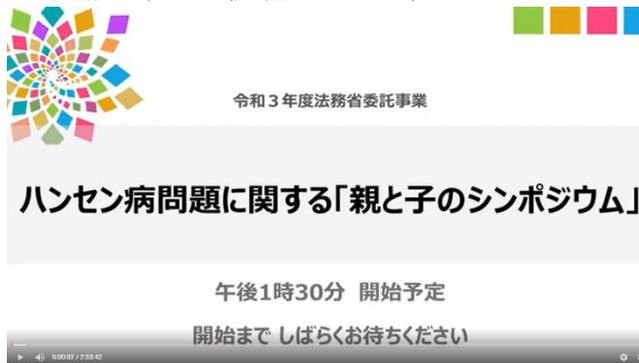
3 参加者数等

1, 761人 (YouTube「ユニーク視聴者数」)

※参考：同「視聴回数」2, 143回

同「最大同時視聴者数」258人

4 配信の様子 (画面イメージ)



ライブ配信前：案内



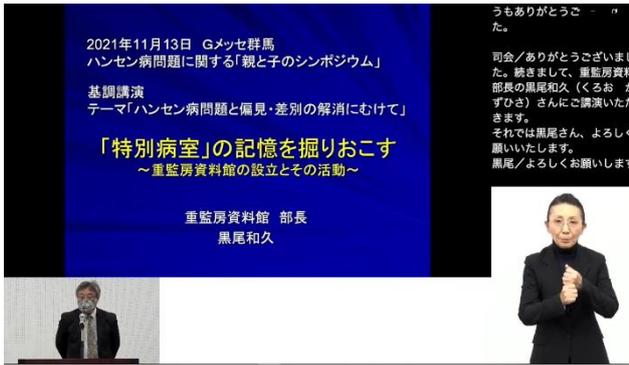
主催者挨拶



ビデオ上映



基調講演：吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会副会長）



基調講演：黒尾和久（重監房資料館部長）



パネリスト：清水蒼空（群馬県中之条町立六合中学校3年）



パネリスト：狩野大樹（群馬大学社会情報学部4年）



コーディネーター：藪本雅子（フリーアナウンサー・記者）



トークショー：石井正則（俳優、写真集『13（サーティーン）ハンセン病療養所からの言葉』著者）

〔別添〕

- ・当日配布資料（ダウンロード用プログラム）
- ・アンケート集計結果
- ・採録記事（誌面イメージ）

5 オンライン（アーカイブ配信）

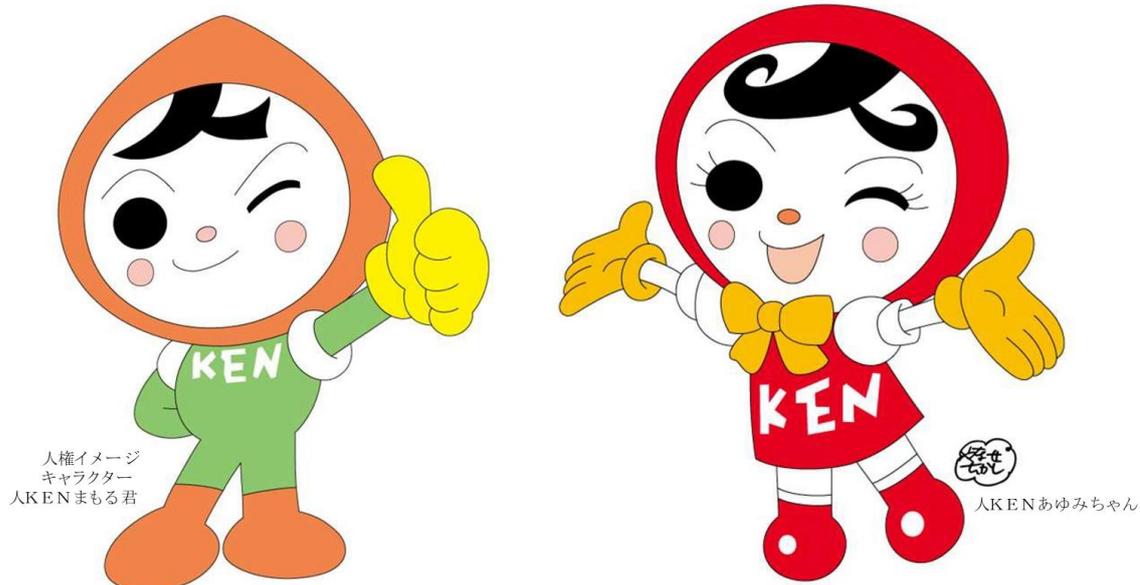
本シンポジウム終了後、YouTube 人権チャンネルにおいて、オンライン（アーカイブ）配信を実施。（令和3年12月8日（水）の公開から1年間限定）

2021.11.13 令和3年度「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」

https://youtu.be/a0hpdN3M_rY

令和3年度法務省委託

ハンセン病問題に関する 「親と子のシンポジウム」



■日時

令和3年11月13日（土） 午後1時30分～午後4時00分（予定）

※オンライン配信

■主催

法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、前橋地方法務局、群馬県人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター

■後援

中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、群馬県、草津町、中之条町、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、群馬県市長会、群馬県町村会、上毛新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同）

目 次

● タイムスケジュール	2
● 人権啓発動画	
○ 「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」	3
● 基調講演	
○ 基調講演1 吉幸かおる	4
○ 基調講演2 黒尾和久	5
● パネルディスカッション	
○ パネリスト1 清水蒼空	9
○ パネリスト2 狩野大樹	14
○ コメンテーター 吉幸かおる・黒尾和久	
○ コーディネーター 藪本雅子	
● トークショー「ハンセン病問題について」	
○ 特別ゲスト 石井正則	19
○ コーディネーター 藪本雅子	20
● YouTube での人権啓発関連映像の配信について	21
● 人権ライブラリーの御案内	22

本シンポジウムの目的

ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見差別は、今なお社会に根深く残っています。この偏見差別を解消するためには、ハンセン病問題に関する正しい知識と、ハンセン病患者・元患者やその家族の方々がおかれている現実を理解し、それを次世代へも継承していくことが必要です。ハンセン病問題に関わってこられた方の声を聴き、親子で考えていくためのシンポジウムを開催します。

タイムスケジュール

- 13:30~13:35 開会・主催者挨拶
- 13:35~13:45 ビデオ上映
人権啓発動画
「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」から
- 13:45~14:25 基調講演
- 講演1：ハンセン病問題と偏見・差別の解消に向けて
吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、
ともに生きる会副会長）
 - 講演2：「特別病室」の記憶を掘り起こす～重監房資料
館の設立とその活動～
黒尾和久（重監房資料館 部長）
- 14:25~14:35 休憩
- 14:35~15:05 パネルディスカッション
- パネリスト
 - 1 清水蒼空（群馬県中之条町立六合中学校 3年）
 - 2 狩野大樹（群馬大学社会情報学部 4年）
 - コメンテーター
吉幸かおる・黒尾和久
 - コーディネーター
藪本雅子（フリーアナウンサー・記者）
- 15:05~15:45 トークショー「ハンセン病問題について」
- 特別ゲスト
石井正則（俳優、写真集「13（サーティーン）ハンセン
病療養所からの言葉」著者）
 - コーディネーター
藪本雅子
- 15:50 閉会

- 本シンポジウム終了後、アンケートへの御協力をお願いいたします
<https://forms.gle/yxSm42Cm3PHdufxy5>（Web アンケートフォーム）



[人権啓発動画]

「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」

本シンポジウムでは、“ハンセン病元患者の家族 林カさんのエピソード”を上映



令和2年度
法務省委託 人権啓発動画

ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～

企画 法務省人権擁護局
公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作 毎日映画社

DVD (34分40秒)
日本語字幕つき
副音声入り
「活用の手引き」つき

YouTube「MOJ（法務省）チャンネル」で全編視聴可能

https://youtu.be/gPH5b_CDwto

[基調講演]

講演1

ハンセン病問題と偏見・差別の解消に向けて

よしこう
吉幸 かおる

群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会

副会長

【略歴】

平成 11 年 11 月	栗生楽泉園訪問、 ^{こだまゆうじ} 笹雄二さんと初対面
平成 12 年 4 月	群馬・ハンセン病支援の会 入会 東京地裁へ通う原告を支援
平成 15 年 7 月～	ともに生きる会 事務局責任者
平成 26 年 10 月～	群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざしともに生きる会副会長

[基調講演]

講演 2

「特別病室」の記憶を掘り起こす
～重監房資料館の設立とその活動～



くろお かずひさ
黒尾 和久

じゅうかんぼうしりょうかん
重監房資料館 部長

【略歴】

平成 21 年 4 月	国立ハンセン病資料館	学芸課長
平成 26 年 7 月	国立ハンセン病資料館	学芸部長
平成 30 年 4 月	重監房資料館	部長

中央大学文学部 兼任講師（博物館学・考古学）
東京学芸大学 非常勤講師（博物館学）

「特別病室」の記憶を掘りおこす～重監房資料館の設立とその活動～

重監房資料館 部長 黒尾和久

- 主たる人権課題（法務省）→国が認めた〇〇に対する暴力
1.女性 2.子ども 3.高齢者 4.障害のある人 5.部落差別（同和問題） 6.アイヌの人々 7.外国人 8.感染者等 9.ハンセン病患者・元患者・その家族 10.刑を終えて出所した人 11.犯罪被害者等 12.インターネットによる人権侵害 13.北朝鮮当局によって拉致された被害者等 14.ホームレス 15.性的指向・性自認（性同一性） 16.人身取引（性的サービスや労働の強要等） 17.東日本大震災に起因する人権問題
- 8.感染者等、9.ハンセン病患者・元患者・その家族→コロナウィルス感染症問題
感染症にかかった患者・回復者、家族などが、周囲の人々の誤った知識や偏見などにより、日常生活、職場、教育・医療現場などで差別やプライバシー侵害を受ける問題。
- ハンセン病患者・家族遺族への暴力は、国民をまきこんだ、国家スケールの暴力！
2001年 元患者・回復者が、らい予防法違憲国家賠償請求訴訟に勝利！
2019年 当事者家族・遺族が、国を訴えた裁判でも、被害が認められる！
問われているのは、私たちの当事者意識・人権感覚。「暴力」に対する感度。
- 重監房って何？ 正式名称は、「特別病室」 とんでもない暴力装置！！
重監房とは、かつて国立療養所栗生楽泉園にあったハンセン病患者を収容した懲罰施設の俗称である。正式名称は「特別病室」。「病室」とは名ばかりで、官憲による「取り締まり」や園当局に「不良」と目された患者が、全国から送致されてきて、監禁・放置される「牢獄」がその実態だった。運用の当初から「草津送り」が死を意味する隠語として、ハンセン病患者の間では、その過酷さが噂になっていた。
- ハンセン病療養所 懲戒検束関係年表 1907年 法律第11号（「癩予防二関スル件」）
1909年 5カ所の連合府県立癩療養所
1916年 法律に懲戒検束に関する規定を追加（大正5年法律第21号、同内務省令第6号、患者懲戒・検束二関スル施行細則）
1917年 全生病院、外島保養院、菊池患楓園に監禁室が設置され、以後、各園に設置される

- 1930年 国立療養所長島愛生園開園
- 1931年 国立療養所患者懲戒検束規定
癩予防法公布
- 1932年 国立療養所栗生楽泉園開園
- 1938年 特別病室（重監房）設置 栗生楽泉園
警察留置場（外監禁）設置 菊池恵楓園
- 1940年 本妙寺事件 幹部は警察留置場→特別病室送致
- 1947年 特別病室廃止 運用期間の1938～1947年にのべ93人収
監、23人死亡
- 1953年 らい予防法
懲戒検束規定がなくなり、療養所内の監禁室が廃止される。
かわりに患者専用の警察留置場が各療養所の敷地内や隣接地に
設置ないし準備される。
菊池医療刑務支所（菊池恵楓園に隣接）
- 1996年 らい予防法廃止
菊池医療刑務支所の停止
- 2014年 重監房資料館開館
- 2016年 特別法廷問題をめぐり最高裁が謝罪
- 2020年 菊池事件国賠訴訟判決（Fさんへの審理は違憲）

● 重監房再現へ ～当事者・苜雄二の闘い～

- 2003年1月 栗生楽泉園・重監房の復元を求める会を結成。
- 2004年6月 重監房復元をもとめる107101筆書名を厚労省に提出。
→ 2006年『ハンセン病 重監房の記録』宮坂道夫
- 2007年 ハンセン病対策協議会において、歴史建造物・資料の保存復
元等について、重監房復元を最優先課題とすることを確認。
- 2009年～ ワーキンググループにて復元にむけての議論・検討を開始。
- 2014年4月30日 重監房再現施設をもつ資料館開館

● 重監房復元の障がいとなった大問題！！

資料がない。建設設計図どころか、外観写真の1枚も残されていなかった。
そこで、復元とまでいなくても再現といえるだけのエビデンスを確保するた
めに発掘調査を行うことにした。（2013年8～9月）

● 重監房跡地（遺構）発掘の目的

- ①重監房再現に必要な建築部材、建築工法に関する情報を得る。
- ②監禁施設である動かぬ物証を得る。
- ③収監者に関わる遺物（<モノ>資料）を得る。→「便槽」内の調査

- 二つ目の「国立のハンセン病資料館」重監房資料館の開館（2014. 4. 30）
ハンセン病問題の解決の促進に関する法律（2009.4.1 施行 2019.11.22
改正）

通称「ハンセン病問題基本法」

第 18 条 国は、ハンセン病患者であった者等及びその家族の名誉回復を図るため、国立のハンセン病資料館の設置、歴史的建造物の保存等ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及啓発その他必要な措置を講ずる……

名誉回復事業としてのハンセン病療養所の歴史遺産化の推進

- 重監房資料館に是非お越しく下さい！

重監房資料館では、未だ不明な点の多い重監房の運用の実態や患者収監の手続き、収容患者のライフヒストリー等、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査・研究成果を公表するという博物館固有の方法を基本に、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促し、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す活動を行っている。



重監房資料館

群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 （入館無料）

<http://sjpm.hansen-dis.jp/>

[パネルディスカッション]

パネリスト1

しみず そら
清水 蒼空

群馬県中之条町立六合^{くに}中学校 3年

パネルディスカッション

群馬県中之条町立六合中学校 生徒代表 清水 蒼空

中之条町立六合中学校の紹介

- ・群馬県北部中之条町にある。(旧六合村)
- ・旧六合村は草津町と隣接しており冬住の里と呼ばれていた。
- ・全校生徒11名



栗生楽泉園との交流 (楽泉園訪問)

平成19年度 栗生楽泉園との交流開始。

〈内容〉

- ・ハンセン病について事前学習
(ビデオや楽泉園職員の方の講話)
- ・楽泉園訪問(入所者のご自宅でインタビュー)
- ・文化祭で学習成果の発表

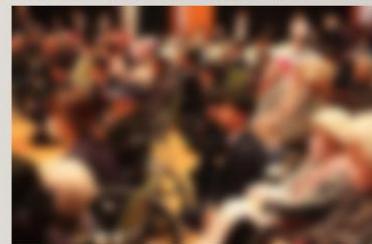


栗生楽泉園との交流 (年忘れ会への参加)

平成21年度から

〈内容〉

- ・楽泉園で年末に行われる年忘れ会への参加
- ・全校合唱の披露、入所者の方々と歌を歌う。
- ・太鼓、リコーダーの演奏



栗生楽泉園との交流 (ミニツリー)

令和2年度の活動

- ・年忘れ会への参加見送り
→何かできることはないか
- ・生徒会を中心にクリスマスミニツリー
を作成し、プレゼントした。



交流以外の活動 (栗生楽泉園についての理解)

- ・重監房資料館見学
- ・ビデオによる学習

「栗生の園に生きた証～みんなのために～」

群馬県社会福祉士会ハンセン病福祉研究委員会



栗生楽泉園との交流を通して

- ・ハンセン病に関する問題を身近に感じることができた
 - ・正しい知識をもつこと
 - ・差別のない社会を創ること
 - ・周りの人や環境に感謝しながら生活していきたい
- } コロナ禍での生活にも通じる

[パネルディスカッション]

パネリスト2

かのう たいき
狩野 大樹

群馬大学 社会情報学部 4年

令和3年度法務省委託事業

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

ハンセン病患者家族 とともに生きるために

群馬大学 社会情報学部4年
行政法ゼミ
狩野 大樹

1

ハンセン病との出会いと学び

- 大学1年生の時に、ハンセン病問題を学ぶ授業を履修。東京都東村山市の多磨全生園を訪問し、園内とハンセン病資料館を見学した。ハンセン病について何も知らないことを恥ずかしく感じ、もっと学びたいと思った。
- 大学2年生の時には、授業で草津町を訪れ、旧湯之沢地区、栗生楽泉園、重監房資料館を見学した。栗生楽生園では、入所者さんのお部屋を訪問し、直接いろいろなお話を伺うことができた。
- 現在、大学4年生。行政法ゼミに所属し、ハンセン病家族訴訟と「未感染児童」の問題をテーマとする卒業論文を執筆中。

2

ハンセン病家族訴訟判決とその意義

- 2016年にハンセン病の患者家族が、国に謝罪と損害賠償を求めて提訴。2019年6月に熊本地方裁判所で国の責任を認める判決が出された。国は控訴を断念し、本判決は確定した。

- 本判決の意義

国のハンセン病隔離政策等によって、患者だけでなくその家族も、差別され、人権が侵害がされたと認められたこと。

国のハンセン病隔離政策等によって、患者や家族を差別する「社会構造」が形成されたとしたこと。

3

草津旧湯之沢における「未感染児童」の生活

- 1923年、コンウォール・リー女史は、聖マーガレット館を建設。ハンセン病でない子どもたちがハンセン病である親と離れ、ここで暮らした。
- そのような子どもたちは「未感染児童」と呼ばれた。誤った知識が生んだ差別用語と言える。
- 1950年代に「未感染児童」として聖マーガレット館に入所していた中條さん(仮名)は、周囲の子どもから「患者、患者の子」と呼ばれ、とても嫌な思いをしたと語っている(重監房資料館DVD「知られてはいけない秘密～患者の子と呼ばれて～」)。



聖マーガレット館



コンウォール・リー女史
写真提供:
日本聖公会北関東教区

栗生楽泉園の「未感染児童」保育所

- 1933年、「未感染児童」の保育を目的として、園内に保育所が開所された。
- 1938年当時、保育所では、1歳から12歳までの子ども54名、13歳以上の子ども1名、合計55名が生活していた。子どもたちの生活環境は、劣悪であったとされる。
- 1947年8月1日に、高松宮殿下が来園し、保育所を視察。その整備の悪さ、不衛生を指摘したとされる（「風雪の紋」236ページ）。



患者家族の被害が問いかけるもの

- 私たちの地域社会でも、患者の家族は、偏見差別によりつらい体験をした。今でも、偏見差別をおそれ、患者家族であることを隠している人もいる。
- ハンセン病に対する差別は、今も残っている。
- 2019年の家族訴訟判決は、患者家族を差別する「社会構造」が形成されていたことを指摘した。私も、その「社会構造」のなかで、患者家族を差別する側にいるのかもしれない。

「学ぶ」から「ともに生きる」へ

- ハンセン病問題について、私はこれまで、正しい知識を得ようと、大学の授業やシンポジウムに積極的に参加し学習してきた。さらに深く理解したいと考え、卒業論文のテーマとして取り組んできた。
- しかし、ハンセン病問題に関する資料や論文を読んだり、関係者にインタビューをする行為は、研究者と研究対象の関係性を作り出す。両者の間には、「壁」ができてしまう。
- 自分と患者家族の方々との間にある「壁」を乗り越えるには、「学ぶ」だけではなく、「ともに生きる」ことが重要。

7

多様性を尊重し、ともに生きるために

- 地域社会には、病気、障害、人種、性別、国籍、民族、宗教、性的指向などによる偏見差別に苦しんでいる人が大勢いる。
- 想像力を働かせ、学び、発信し続けることで、お互いが壁を乗り越えることができるのではないだろうか。
- ハンセン病元患者やその家族をはじめとする多様な人々が、尊重され、ともに生きることのできる社会を実現するために行動しよう。
- 「今はそっとしておいてほしい」という人もいる。一方的無理やりに関わろうとせず、双方向のコミュニケーションを大切にしよう。

[トークショー]

特別ゲスト

いしい まさのり
石井 正則



俳優

写真集「^{サーティーン}13 ～ハンセン病療養所からの言葉～」著者

ドラマ「古畑任三郎」への出演をきっかけに、ドラマ、映画、舞台などの作品に出演。
中古の二眼レフの購入をきっかけに本格的に写真を撮始めた。
全国 13 カ所の国立ハンセン病療養所にて写真を撮影し、2020 年 9 月に自身初の写真展
「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る～」を開催。

ドラマ

「古畑任三郎」他、「おかえりモネ」（2021 年）他多数

映画

「老後の資金がありません」（2021 年公開中）、
「Fukushima50」（2020 年）、「THE 有頂天ホテル」他多数

[パネルディスカッション]

[トークショー]

コーディネーター

やぶもと まさこ
藪本 雅子

フリーアナウンサー・記者



日本テレビアナウンサーとしてバラエティ番組に多数出演、アナウンサー3人組『DORA』結成で注目される。

ニュース「きょうの出来事」サブキャスターを経て、平成10年、報道局記者へ転向。ハンセン病国賠訴訟に合わせて、NNNドキュメントを制作。結婚を機に退社。2児の母となる。

平成22年上智大学大学院で修士号を取得。研究テーマは「ハンセン病とメディア」。平成24年より、人権教育啓発推進センター発行の情報誌「アイユ」にて人権問題記事を連載中。

平成元年度人権擁護功労賞 法務大臣表彰（ユニバーサル社会賞）受賞

〔YouTube での人権啓発関連映像の配信について〕

動画共有サイト YouTube（ユーチューブ）の「人権チャンネル」と「法務省チャンネル」では、人権について理解していただくための映像を公開しています。

<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

人権チャンネル

検索



【STOP！コロナ差別】



ピコ太郎さん（シンガーソングライター）



白本彩奈さん（女優）

法務省チャンネル

検索



<https://www.youtube.com/MOJchannel>



STOP！コロナ差別～差別や偏見を思いやりやエールに！～



STOP！コロナ差別 <尾身先生の気づき喚起動画>編



法務省人権擁護局「STOP！コロナ差別」特設サイト

https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html

〔「STOP！コロナ差別」座談会の内容公開について〕

「コロナ差別」が生まれるメカニズムを多様な観点から考察するとともに、社会や人々がどう立ち向かうべきか、座談会を行いました。広く内容を公開しています。

新型コロナウイルス感染症と人権に関する座談会

STOP! コロナ差別

～差別や偏見を思いやりやエールに！～

特別採録

- 「採録記事」と「発言録」で議論内容を「読む!」
- 感染を経験した住吉美紀さんのラジオ番組トークを「聞く!」
- 無料貸し出しの収録DVDで座談会を「見る!」

法務省・全国人権擁護委員連合会

(コーディネーター) 坂元 茂樹 公益財団法人人権教育啓発推進センター理事長	(パネリスト) 森光 玲雄さん 臨床心理士	(パネリスト) 磯野 真穂さん 文化人類学者・医療人類学者	(パネリスト) 増田 コリヤさん ジャーナリスト
--	-----------------------------	-------------------------------------	--------------------------------

こちらからアクセス



<https://www.jinken-library.jp/corona2020/>

[人権ライブラリーの御案内]



人権ライブラリーでは、およそ 15,000 冊の国内外の人権関連図書を始め、映像資料 (DVD、VHS)、紙芝居、展示用パネル、全国の地方公共団体が発行する啓発資料などを所蔵し、閲覧・貸出しを行っています。

これらの啓発資料は、郵送等による貸出しを行っており、遠方の方も御利用いただけます。また、無料の貸会議室 (多目的スペース) もございます。ぜひ、御利用ください。



人権ライブラリー

検索

<https://www.jinken-library.jp>



〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F
TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954
Eメール library@jinken.or.jp

※ 公益財団法人人権教育啓発推進センター・併設



人権イメージキャラクター人KENまもる君と人KENあゆみちゃんは、漫画家やなせたかしさんのデザインにより誕生しました。2人とも、前髪が「人」の文字、胸に「KEN」のロゴで、「人権」を表しています。人権が尊重される社会の実現に向けて、全国各地の人権啓発活動で活躍しています。

人権を侵害されていると感じたら… 法務局・地方法務局、その支局に気軽に御相談ください

みんなの人権 110番		0 5 7 0 - 0 0 3 - 1 1 0
女性の人権ホットライン		0 5 7 0 - 0 7 0 - 8 1 0
子どもの人権 110番		0 1 2 0 - 0 0 7 - 1 1 0
外国語人権相談ダイヤル		0 5 7 0 - 0 9 0 - 9 1 1

令和3年度法務省委託

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

公益財団法人人権教育啓発推進センター

「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F

TEL 03-5777-1802 (代表) / FAX 03-5777-1803

ウェブサイト <http://www.jinken.or.jp>  @Jinken_Center

YouTube 「人権チャンネル」 <https://www.youtube.com/jinkenchannel>

YouTube 「法務省チャンネル」 <https://www.youtube.com/MOJchannel>

人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>

※ 人権教育啓発推進センター併設

法務省人権擁護局 <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>



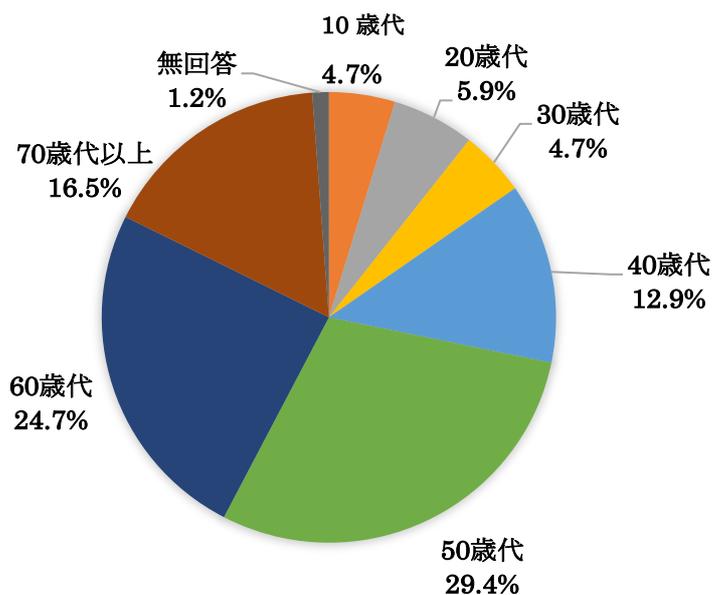
法務省人権擁護局で検索！

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」 参加者アンケート集計結果

(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため合計は必ずしも 100 とは限らない。

1-1 御自身について、当てはまるものを選んでください。(年齢)

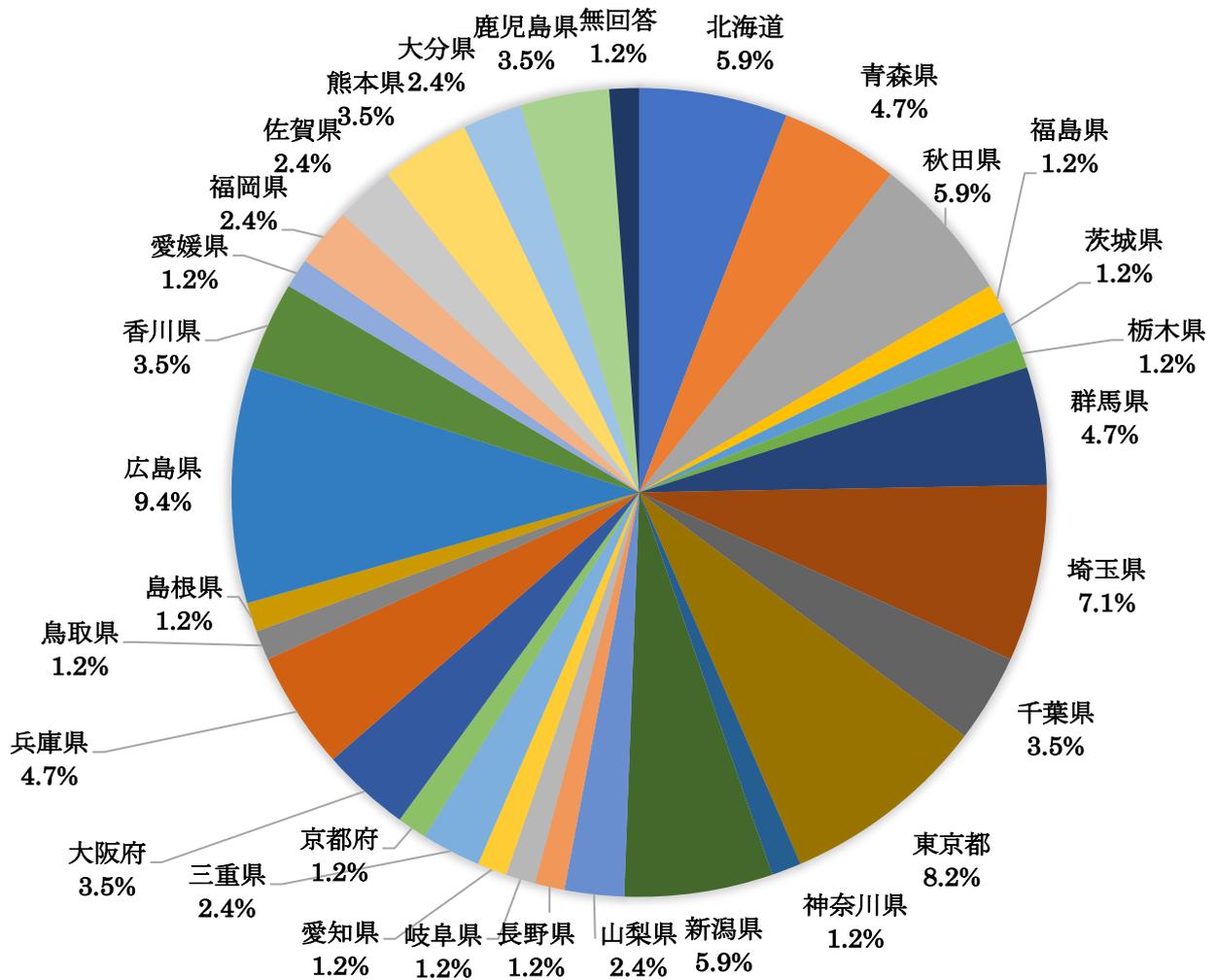
(1)	年齢	
1	10歳未満	0件
2	10歳代	4件
3	20歳代	5件
4	30歳代	4件
5	40歳代	11件
6	50歳代	25件
7	60歳代	21件
8	70歳代以上	14件
	無回答	1件
	計	85件



1-2 御自身について、当てはまるものを選んでください。(居住地)

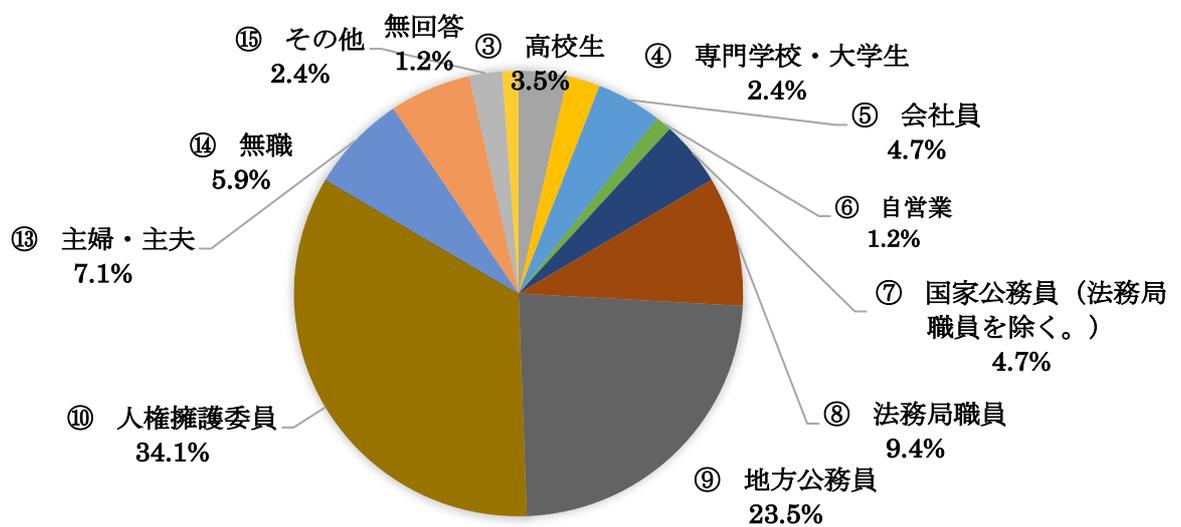
(2)	居住地	
1	北海道	5件
2	青森県	4件
3	岩手県	0件
4	宮城県	0件
5	秋田県	5件
6	山形県	0件
7	福島県	1件
8	茨城県	1件
9	栃木県	1件
10	群馬県	4件
11	埼玉県	6件
12	千葉県	3件
13	東京都	7件
14	神奈川県	1件
15	新潟県	5件
16	富山県	0件
17	石川県	0件
18	福井県	0件
19	山梨県	2件
20	長野県	1件
21	岐阜県	1件
22	静岡県	0件
23	愛知県	1件
24	三重県	2件
25	滋賀県	0件
26	京都府	1件
27	大阪府	3件
28	兵庫県	4件
29	奈良県	0件
30	和歌山県	0件
31	鳥取県	1件
32	島根県	1件
33	岡山県	0件
34	広島県	8件
35	山口県	0件

36	徳島県	0件
37	香川県	3件
38	愛媛県	1件
39	高知県	0件
40	福岡県	2件
41	佐賀県	2件
42	長崎県	0件
43	熊本県	3件
44	大分県	2件
45	宮崎県	0件
46	鹿児島県	3件
47	沖縄県	0件
48	その他	0件
	無回答	1件
	計	85件



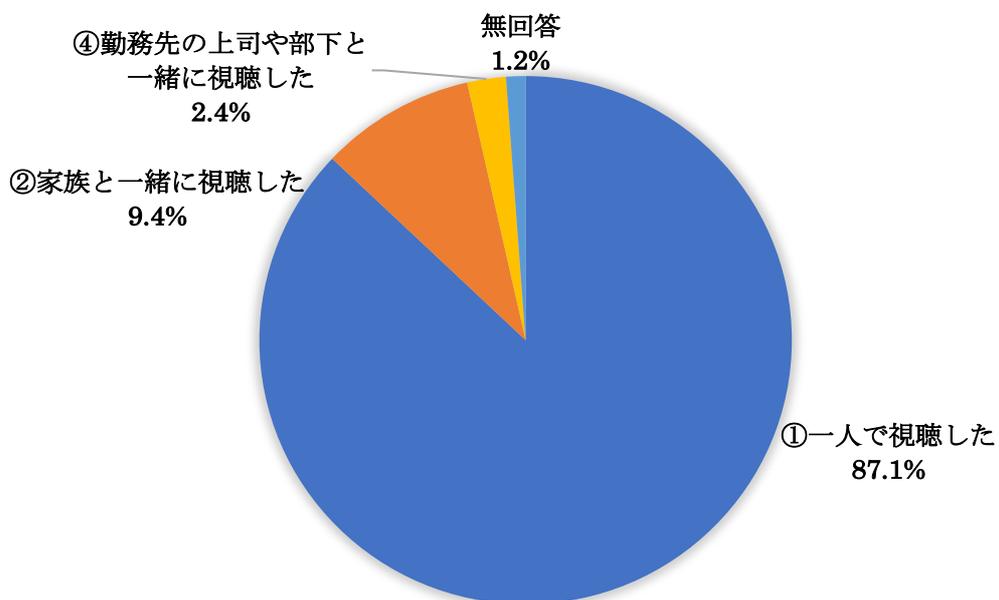
1-3 御自身について、当てはまるものを選んでください。(職業)

(3)	職業	
1	① 小学生	0 件
2	② 中学生	0 件
3	③ 高校生	3 件
4	④ 専門学校・大学生	2 件
5	⑤ 会社員	4 件
6	⑥ 自営業	1 件
7	⑦ 国家公務員(法務局職員を除く。)	4 件
8	⑧ 法務局職員	8 件
9	⑨ 地方公務員	20 件
10	⑩ 人権擁護委員	29 件
11	⑪ アルバイト・パート	0 件
12	⑫ 派遣・契約社員	0 件
13	⑬ 主婦・主夫	6 件
14	⑭ 無職	5 件
15	⑮ その他	2 件
	無回答	1 件
	計	85 件



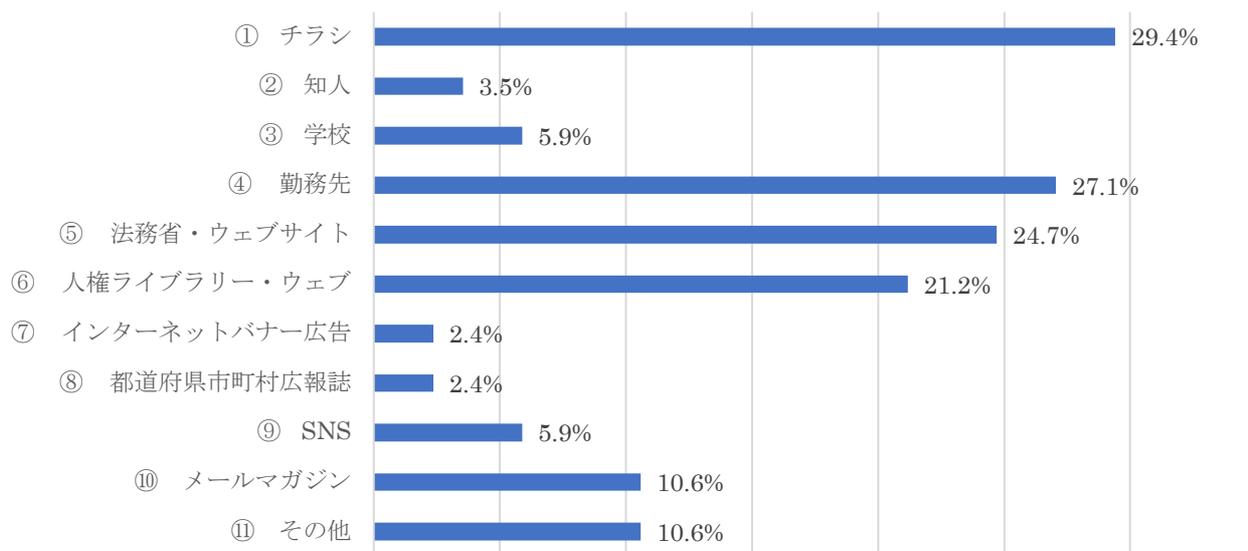
1-4 今回のシンポジウムは誰かと一緒に御覧になりましたか。

(1)	年齢	
1	①一人で視聴した	74件
2	②家族と一緒に視聴した	8件
3	③友人と一緒に視聴した	0件
4	④勤務先の上司や部下と一緒に視聴した	2件
	無回答	1件
	計	85件



2 ハンセン病に関する「親と子のシンポジウム」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)

1	①チラシ	25件
2	②知人	3件
3	③学校	5件
4	④勤務先	23件
5	⑤法務省・ウェブサイト	21件
6	⑥人権ライブラリー・ウェブサイト	18件
7	⑦インターネットバナー広告・テキスト広告	2件
8	⑧都道府県市町村広報誌	2件
9	⑨SNS	5件
10	⑩メールマガジン (人権教育啓発推進センター発行)	9件
11	⑪その他	9件
	無回答	3件
	計	125件

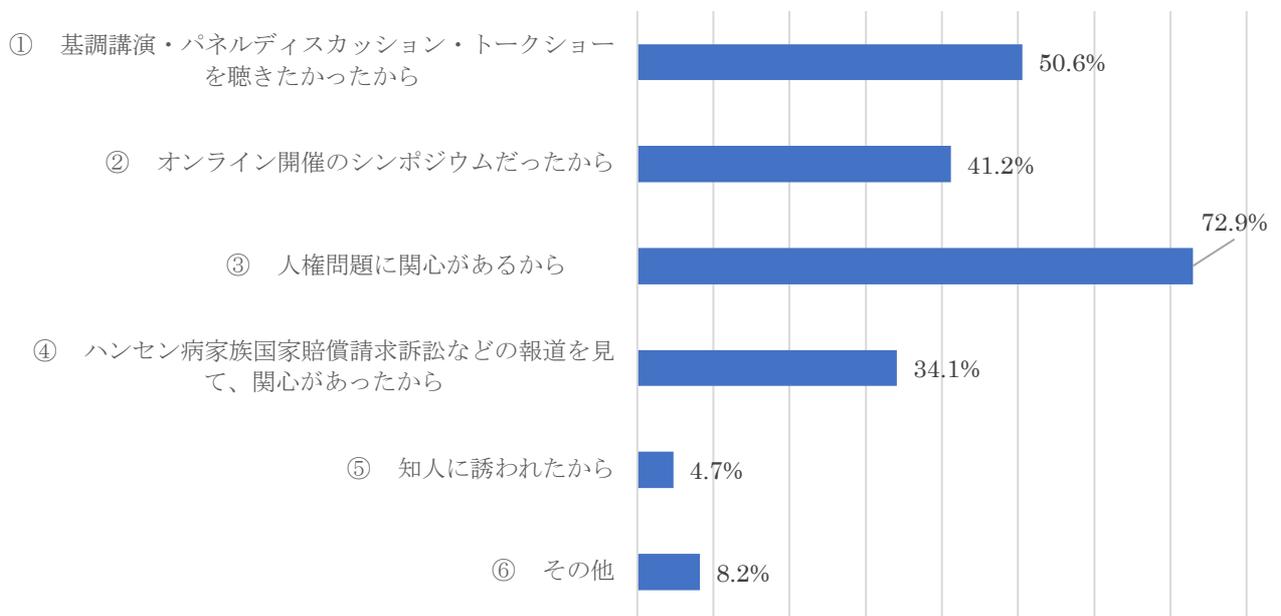


n = 85 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

3 このシンポジウムを視聴しようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

1	① 基調講演・パネルディスカッション・トークショーを聴きたかったから	43件
2	② オンライン開催のシンポジウムだったから	35件
3	③ 人権問題に関心があるから	62件
4	④ ハンセン病家族国家賠償請求訴訟などの報道を見て、関心があったから	29件
5	⑤ 知人に誘われたから	4件
6	⑥ その他	7件
	無回答	2件
	計	182件



n = 85 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

3で①「基調講演・パネルディスカッション、トークショーの話を聴きたかったから」と答えた方はその登壇者を教えてください。(複数回答可)

1	① 吉幸かおるさん	22件
2	② 黒尾和久さん	23件
3	③ 群馬県の中学生、大学生	33件
4	④ 石井正則さん	36件
	計	114件

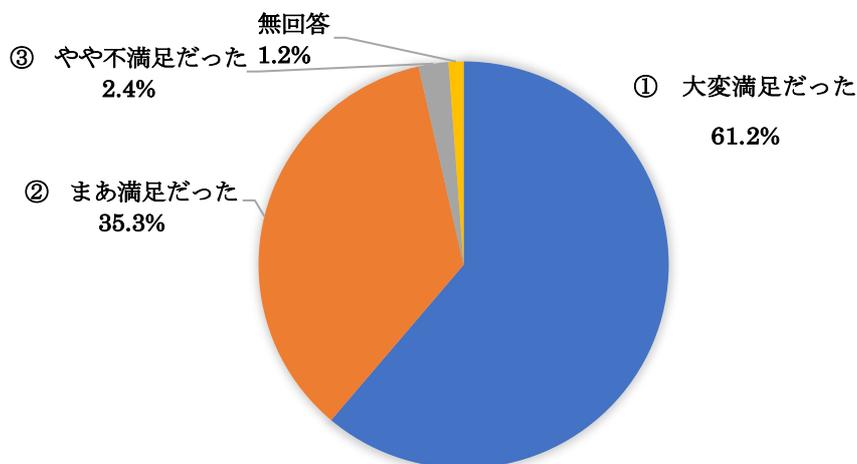


n = 43 (回答者数)

※ n (=回答者数) に対する割合

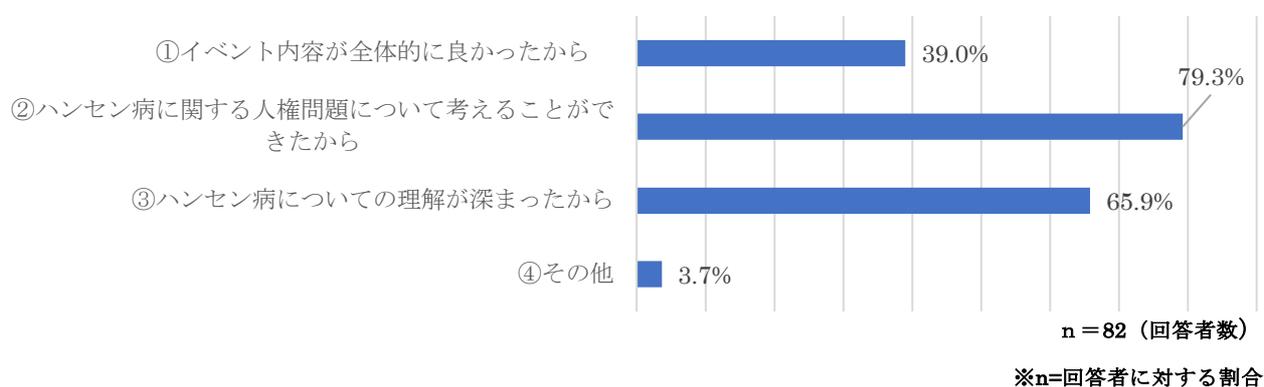
4-1 今回のシンポジウムは全体として満足のいくものでしたか。

1	① 大変満足だった	52件
2	② まあ満足だった	30件
3	③ やや不満足だった	2件
4	④ 大変不満足だった	0件
	無回答	1件
	計	85件



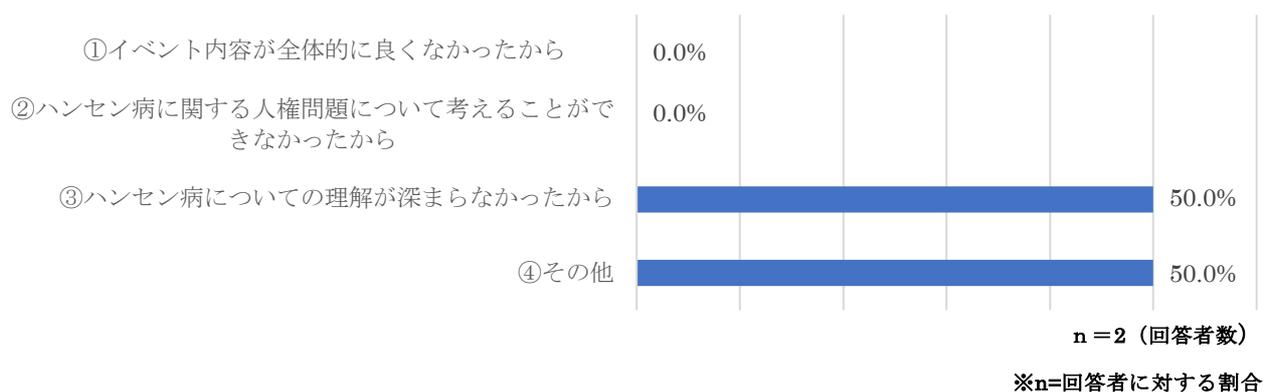
4-2 4-1で「①大変満足だった」又は「②まあ満足だった」とお答えいただいた方に伺います。その理由をお聞かせください。（複数回答可）

1	① イベント内容が全体的に良かったから	32件
2	② ハンセン病に関する人権問題について考えることができたから	65件
3	③ ハンセン病についての理解が深まったから	54件
4	④ その他	3件
	計	154件



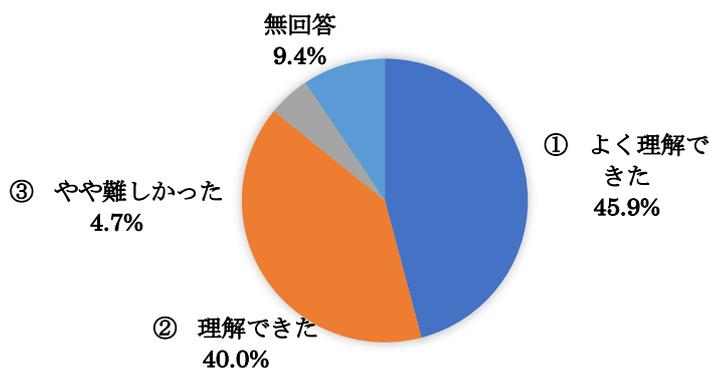
4-3 4-1で「③やや不満足だった」又は「④大変不満足だった」とお答えいただいた方に伺います。その理由をお聞かせください。（複数回答可）

1	① イベント内容が全体的に良くなかったから	0件
2	② ハンセン病に関する人権問題について考えることができなかったから	0件
3	③ ハンセン病についての理解が深まらなかったから	1件
4	④ その他	1件
	計	2件



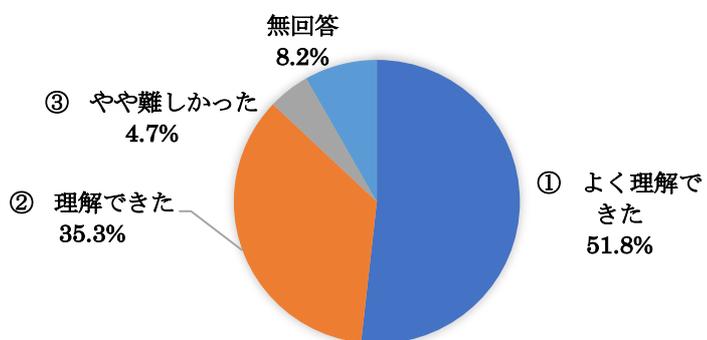
5-1 基調講演（吉幸かおるさん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	39件
2	② 理解できた	34件
3	③ やや難しかった	4件
4	④ 難しかった	0件
	無回答	8件
	計	85件



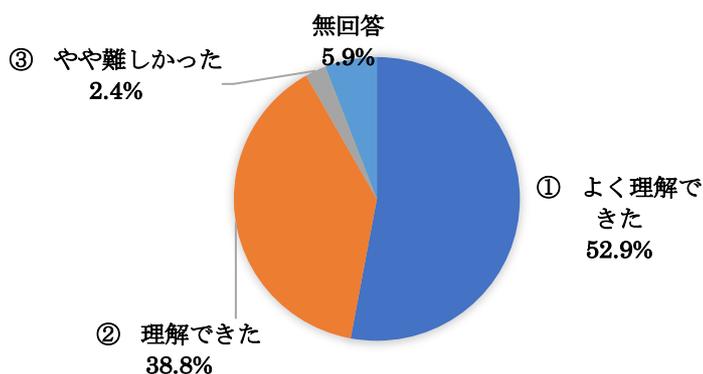
5-2 基調講演（黒尾和久さん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	44件
2	② 理解できた	30件
3	③ やや難しかった	4件
4	④ 難しかった	0件
	無回答	7件
	計	85件



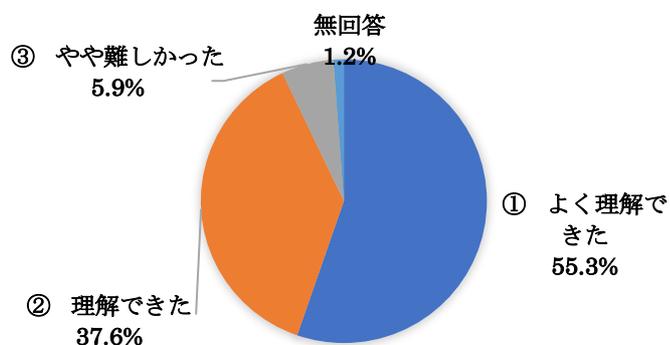
5-3 パネルディスカッションの内容について伺います。

1	① よく理解できた	45 件
2	② 理解できた	33 件
3	③ やや難しかった	2 件
4	④ 難しかった	0 件
	無回答	5 件
	計	85 件



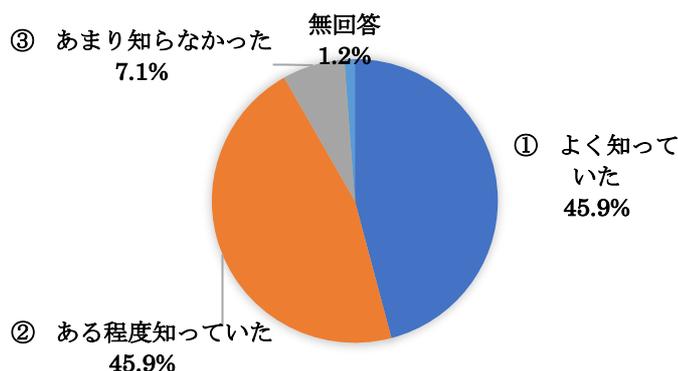
5-4 トークショー（石井正則さん、藪本雅子さん）の内容について伺います。

1	① よく理解できた	47 件
2	② 理解できた	32 件
3	③ やや難しかった	5 件
4	④ 難しかった	0 件
	無回答	1 件
	計	85 件



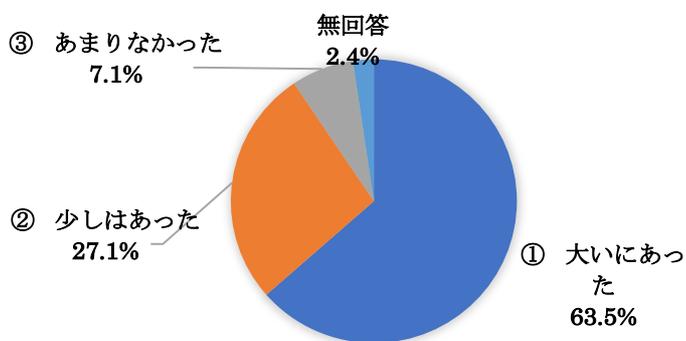
6-1 今回のシンポジウム以前に、今なお社会に根深くハンセン病に関する偏見差別が残っていることを知っていましたか。

1	① よく知っていた	39件
2	② ある程度知っていた	39件
3	③ あまり知らなかった	6件
4	④ 全く知らなかった	0件
	無回答	1件
	計	85件



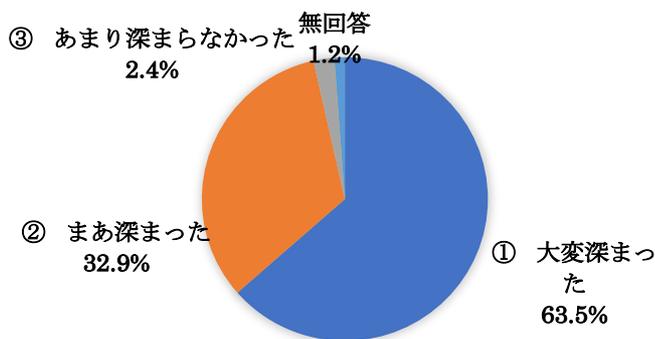
6-2 今回のシンポジウム以前に、ハンセン病に関する人権問題についてどのくらいの関心や理解がありましたか。

1	① 大いにあった	54件
2	② 少しはあった	23件
3	③ あまりなかった	6件
4	④ 全くなかった	0件
	無回答	2件
	計	85件



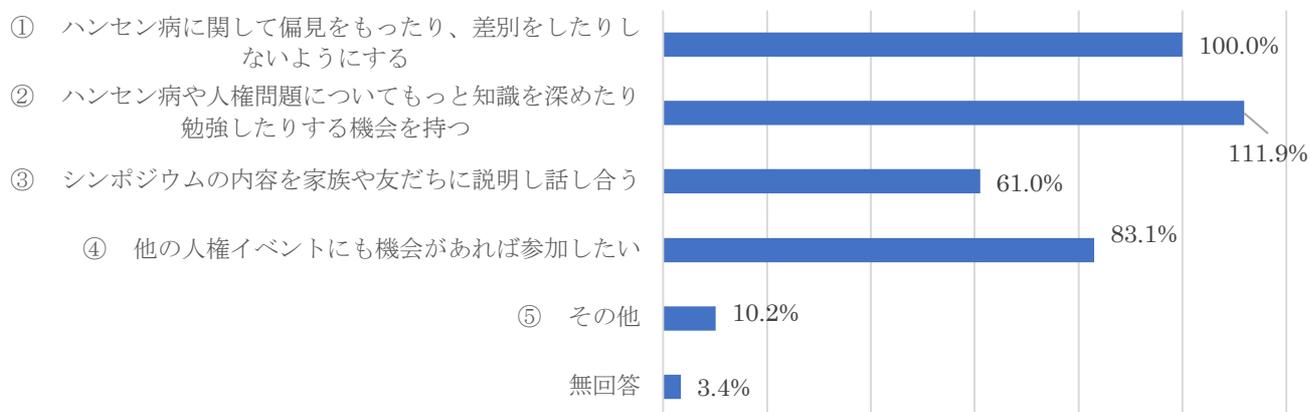
6-3 シンポジウムを終えて、ハンセン病に関する人権問題についての関心や理解は深まりましたか。

1	① 大変深まった	54件
2	② まあ深まった	28件
3	③ あまり深まらなかった	2件
4	④ 全く深まらなかった	0件
	無回答	1件
	計	85件



6-4 シンポジウムに参加して、何か行動しようと思いましたか。(複数回答可)

1	① ハンセン病に関して偏見をもったり、差別をしたりしないようにする	59件
2	② ハンセン病や人権問題についてもっと知識を深めたり勉強したりする機会を持つ	66件
3	③ シンポジウムの内容を家族や友だちに説明し話し合う	36件
4	④ 他の人権イベントにも機会があれば参加したい	49件
5	⑤ その他	6件
	無回答	2件
	計	218件

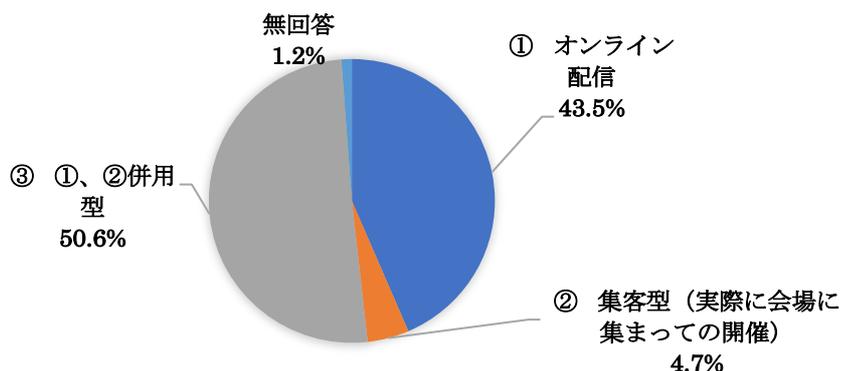


n = 85 (回答者数)

※n=回答者に対する割合

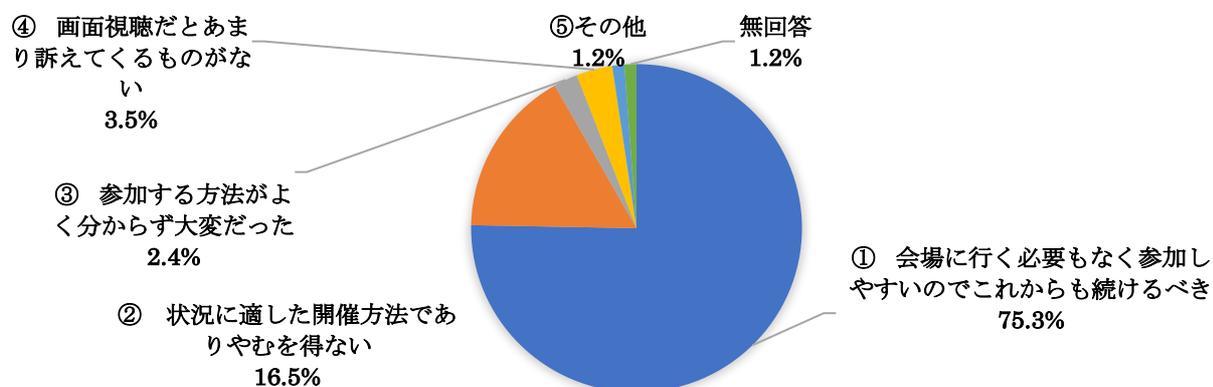
7 今回のシンポジウムのような開催方法は、どの方法がいいと思いますか。

1	① オンライン配信	37件
2	② 集客型（実際に会場に集まっての開催）	4件
3	③ ①、②併用型	43件
4	④ その他	0件
	無回答	1件
	計	85件



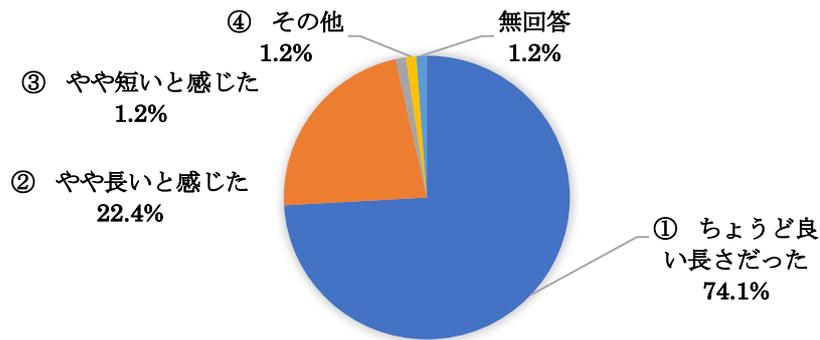
8 シンポジウムのオンライン開催について、どう思いますか。

1	① 会場に行く必要もなく参加しやすいのでこれからも続けるべき	64件
2	② 状況に適した開催方法でありやむを得ない	14件
3	③ 参加する方法がよく分からず大変だった	2件
4	④ 画面視聴だとあまり訴えてくるものがない	3件
5	⑤ その他	1件
	無回答	1件
	計	85件



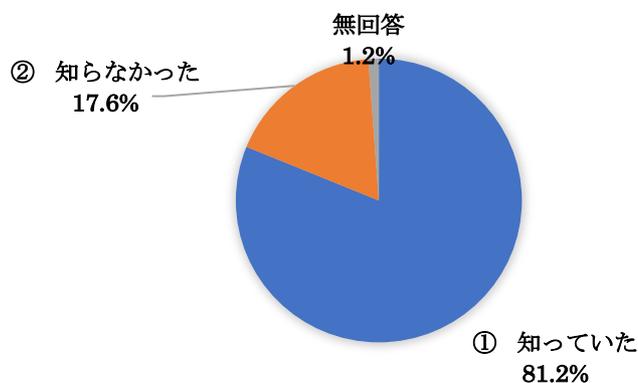
9 シンポジウムの開催時間について、どう思いますか。

1	① ちょうど良い長さだった	63 件
2	② やや長いと感じた	19 件
3	③ やや短いと感じた	1 件
4	④ その他	1 件
	無回答	1 件
	計	85 件



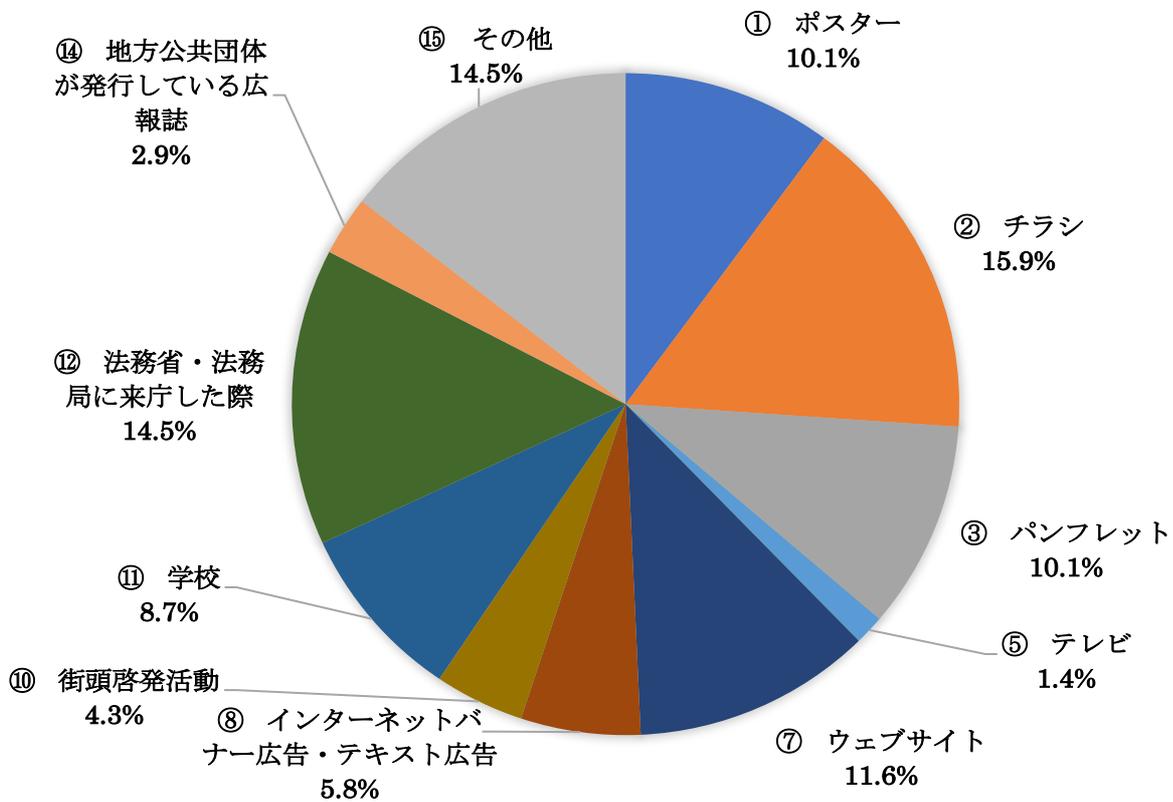
10 本シンポジウムなど、国の人権擁護機関（法務省、法務局・地方法務局、人権擁護委員）が、広く人権啓発活動を行っていることを知っていましたか。

1	① 知っていた	69 件
2	② 知らなかった	15 件
	無回答	1 件
	計	85 件



11 「10」で「①知っていた」とお答えいただいた方に伺います。どのようにして国の人権擁護機関が行っている人権啓発事業を知りましたか。

1	① ポスター	7件
2	② チラシ	11件
3	③ パンフレット	7件
4	④ 新聞	0件
5	⑤ テレビ	1件
6	⑥ ラジオ	0件
7	⑦ ウェブサイト	8件
8	⑧ インターネットバナー広告・テキスト広告	4件
9	⑨ SNS	0件
10	⑩ 街頭啓発活動	3件
11	⑪ 学校	6件
12	⑫ 法務省・法務局に来庁した際	10件
13	⑬ 他の公共機関を利用した際	0件
14	⑭ 地方公共団体が発行している広報誌	2件
15	⑮ その他	10件
	無回答	0件
	計	69件



読売中高生新聞 248×376.5

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて 偏見や差別のない社会へ

ハンセン病とは？

ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気です。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあります。しかし、らい菌の感染力は弱く、発病することは極めてまれです。また、万が一発病しても、現在は早期発見と適切な治療により、後遺症が残ることなく完治します。

明るい未来を作るためにハンセン病問題を考える

11月13日に、「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」が開催されました。ハンセン病患者と元患者、そしてその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に残っています。その解消のためには、若い世代が正しい知識を身に付けて、次世代に継承していく必要があります。ハンセン病問題に関わってこられた方の声を聴き、今こそ人権について考えてみませんか？

基調講演 過ちを繰り返さない決意を



群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会
吉幸 かおる さん

1999年11月、私は友人に誘われて草津へ紅葉狩りに行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽園を訪れました。そこで私にハンセン病の歴史について教えてくれたのが、後に「ハンセン病遼寧園訴訟全国原告団協議会会長」となる菊(こぎ)雄二さんでした。菊さんとお母さんは、ハンセン病患者であることを理由に、家族の元から無理やり離され、療養所に入らされた。そこでは労働を強制され、結婚しても子を授けられ、育てること

は許されませんでした。患者がそれらの方針に反対すると、ただちに懲罰施設である「重監房」に入れられたそうです。私は自分が住む国で起きた人権問題について知らずに64年間生きてきたことを恥ずかしく思い、菊さんたちが取り組んでいた裁判の手伝いや、ハンセン病についての学びを始めた。2001年5月11日、菊さんたちは裁判に勝訴しました。それは大変喜ばしいことですが、まだ完全解決への長い道のりの一歩にすぎませんでした。また、栗生楽園の原告の方々とはほとんど亡くなってしまいましたが、過ちを繰り返さないためには、この問題を未来へと伝えていく必要があります。菊さんたちの想いを受け継ぎ、平和と人権が尊重される世界の実現を共に目指しましょう。

基調講演 歴史から学び、語り継ぐ

私は、重監房資料館で働いています。「重監房」とは、国立療養所の栗生楽園にあった、ハンセン病患者を収監した懲罰施設の通称です。園にとって都合の悪い思想を持つ人や扱いにくい人は、裁判を受ける権利もなく、ここに送られてしまいました。冬になると20度近くになる場所で、十分な治療を受けられず、1938年から1947年の間に収監された延べ93人のうち23人が亡くなったと言われています。重監房資料館は、ハンセン病問題を伝えるために、かつて重監房があった場所の近くに設置されました。いまだに不明な点が多い重監房の運用の実態や、収監患者のライフストーリーなどを示す、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査研究の成果を公表することで、命の大切さを伝え、偏見・差別の解消を目指しています。ぜひ、当資料館にお越し



重監房資料館 部長
黒尾 和久 さん

ただ、当時の環境を想像してみてください。ハンセン病問題と重なる現代の問題として、新型コロナウイルス感染症に感染した人やその家族が、誤った知識や偏見によって差別やプライバシー侵害を受けていることが挙げられます。偏見・差別を受けている人は、常に周囲の視線におびえながら生活しているのです。そんな人の存在に気づき、思いやりの気持ちを持ってください。人権問題は、私たちの身近なところで今も起きているのです。

パネルディスカッション

人権尊重は相手を知ることから

● 交流が思いやりにつながる …… 群馬県中之条町立六中 3年 清水 蒼空 さん

私たちの学校は、栗生楽園との交流を代々続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は、入所者の方と直接お会いしたときに、ハンセン病問題が一気に身近なものになったように感じました。この経験から、積極的に相手のことを理解しようとするれば、偏見・差別は減らせるのではないかと思います。これからも、ハンセン病問題と人権の尊重について、考え続けていきたいです。



● 共生社会の実現に向けて …… 群馬大学社会学部 4年 狩野 大樹 さん

私は大学の授業で東京の多摩全生園を訪れたことをきっかけに、ハンセン病問題に興味を持ち、現在はハンセン病家族国家賠償請求訴訟や未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会では、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、いまだに多くの人々が様々な偏見・差別によって苦しんでいます。想像力を働かせ、学び、発信し続ければ、お互いのある壁を乗り越えて共に生きていくことができると思います。



トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優の石井正則さんは、13か所の国立ハンセン病療養所めぐり、撮影した光景と入所者による詩を写真集として出版しました。そのきっかけは、香川県にある国立療養所の大島青松園で撮影されたドキュメンタリーを見て衝撃を受けたことでした。「療養所の中で人々が感じたことを後世に伝えなければ」と、強い使命感を持って撮影にあたったそうです。



俳優、写真集「13(サーティーン)ハンセン病療養所からの言葉」著者
石井 正則 さん

かつてそこで生きた人たちが直面した厳しい現実がひしひしと伝わる写真だけでなく、療養所の中で咲く花々など、前向きな気持ちを感じさせる作品にも心を動かされたという飯本さん。しかし、ハンセン病元患者の家族が名乗り出て補償金を受け取ることに難しいほど、ハンセン病問題を含む偏見・差別は今でも社会に根強く残っています。その現状をどう思うか、石井さんに聞きました。石井さんは、自身が新型コロナウイルス感染症に感染したと公表した際、誹謗中傷をほとんど受けなかった経験から「社会や人間は差別をしないように成長していると感じた」と語りました。また、ハンセン病について学んだことで、自分自身が偏見・差別の加害者になってしまう可能性にも気付いたといいます。若い世代の皆さんにも、療養所に足を運び、改めて人権について考えてみてほしい、と石井さんは語りました。



フリーアナウンサー、元日本テレビアナウンサー 記者
飯本 雅子 さん



このシンポジウムの模様は、動画共有サイトYouTubeの【人権チャンネル】でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

重監房資料館
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533
<http://sjpm.hansen-dis.jp/>

国立療養所栗生楽園
〒377-1711
群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533
https://www.mhw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/kuu/

知っていますか？
「子どもの人権110番」
いじめや体罰などの困りごと、ひとりでは悩まないで相談してください。
子どもの人権 110番 ☎ 0120-007-110 (通話料無料)
みんなの人権 110番 ☎ 0570-003-110 (通話料無料)
女性の人権ホットライン ☎ 0570-070-810 (通話料無料)

「インターネット人権相談」
インターネットでも人権相談を受け付けています。
パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 <https://www.jinken.go.jp>
外国人のための人権相談: <https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>
● 法務省人権擁護局ホームページ <https://www.moj.go.jp/JINKEN>
● YouTube 法務省チャンネル <https://www.youtube.com/MOJchannel>
● YouTube 人権チャンネル <https://www.youtube.com/jinkenchannel>
● 人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>



人権啓発動画
ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～
隔離政策によって偏見や差別に苦しみがながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。
映像はこちらから
【https://youtu.be/gPH5b_CDwto】

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

毎日小学生新聞 249×391

広告

パネルディスカッション 人権尊重は相手を知ることから

交流が思いやりにつながる。私たちの学校は、栗生楽園との交流を続けており、2009年度からは年末の年忘れ会に参加しています。私は入所者の方と直接お会いして、ハンセン病問題をより身近に感じようになり、この経験から相手のことを積極的に理解しようすれば、偏見差別は減ると思っています。これから、ハンセン病問題と人権の尊重について考え続けます。



栗生楽園 3年 清水 高空さん

みんなと共に生きるために。私は大学でハンセン病問題について知り、現在はハンセン病家族国家賠償請求訴訟・未感染児童などをテーマに卒業論文を書いています。私たちの社会は、ハンセン病患者・元患者の方だけでなく、まだまだ多くの「かかへない偏見差別」に悩まされています。まず、想像力を働かせて学び、発信し続けられ、お互いの間にある壁を乗り越えて共に生きていくことができないと思います。

トークショー 悲劇の現場が教えてくれたこと

俳優・石井正則さんは、13か所の国立ハンセン病療養所をめぐり撮影した光景と入所者による詩を写真集として出版しました。そのきっかけは、香川県にある国立療養所で撮影されたドキュメンタリーを見て衝撃を受けたことでした。「療養所の中で人々が感じたことを後世に伝えなければ、強い使命感を持って撮影があったと思います。」



俳優、写真集「13(サーティーン)ハンセン病療養所から」の著者 石井 正則さん

そこで生きた人たちが直面した難しげな現実が伝わる写真だけでなく、療養所の中で咲く花々など、前向きな気持ちを伝える作品にも心を動かされたという石井さん。しかしハンセン病患者の家族が名乗り出て補償金を受け取ることに難しむほど、ハンセン病問題を含み、偏見差別は今でも社会に根

強く残っています。その現状をどう思うか石井さんに聞きました。石井さんは、自身が新型コロナウイルス感染症に感染したと公表した際、誹謗中傷をほとんど受けなかった経験から、社会や人間は差別をしないよう成長していると感じたと言っています。また、ハンセン病について学んだことで、自分自身「偏見差別の加害者になつてしまつた可能性」にも気付いたといいます。若い世代の皆さんにも、療養所に足を運び、改めて人権について考えてみてほしいと石井さんは語りました。

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津乙647 https://www.nhiv.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/ryou/hansen/kurii/

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて 偏見や差別のない社会へ

明るい未来を作るためにハンセン病問題を考える

11月13日に、「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」が開催されたよ。ハンセン病患者・元患者や家族への偏見・差別を解消するためには、正しい知識を身に付けることが大切。この機会に、みんなで考えてみよう!

基調講演 過ちを繰り返さないで

1999年11月、私は友人に誘われて重慶・紅雲村に行った時に、国立ハンセン病療養所の栗生楽園を訪れました。そこには元患者の御雄二さんがいて、私にハンセン病の歴史を教えてくださいました。御さんとお母さんは、ハンセン病患者であることを理由に、療養所に無理やり入所させられました。そこでは労働を強制され、結婚し子どもを授け、育てることは許されませんでした。方針に反対する患者は罰を与えるための施設、重監房に入れられたそうです。私は自分が住む国で起きた人権問題について知らずじまいなことを耻かしく思い、御さんが取り組む裁判の手伝いやハンセン病についての学びを始めました。御さんは2001年、ハンセン病患者の賠償を認めたらしく、立法が憲法に反すると国を訴えた裁判に勝訴しましたが、それは解決への入り口に過ぎませんでした。悲劇を繰り返さないためには、この問題を未来へと伝えたい。いかに伝えていかなければなりません。御さんたちの想いを受け継ぎ、平和と人権を尊重される世界を目指しましょう。



群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、国会議員にも生きる会 副会長 吉幸 孝昭さん

基調講演 歴史から学び、伝えよう

私は、重監房資料館で働いています。重監房とは、一部のハンセン病患者を罰するための施設の通称です。今には20度近くになる場所でも、十分な治療を受けられ、1938年から1974年の間に収容された93人のうち23人が亡くなったと言われています。重監房資料館は、かつて重監房があった場所の近くに設置されました。今でも不明な点が多い重監房の使い方や、患者たちの人生の物語などを示す、重監房とハンセン病問題に関する資料を収集・保存し、調査や研究成果を発表することで、命の大切さを伝え、偏見差別の解消を目指しています。ぜひ、現地で当時の環境を想像してみてください。ハンセン病問題は重なる現代の問題として、新型コロナウイルス感染症に感染した人やその家族が誤った知識や偏見によって差別やプライバシー侵害を受けていることが挙げられます。そういった偏見、思いやりの欠けた存在に、発付き、思いやりの気持ちは持つていただきたい。人権問題は私たちの身近なところで今も起きています。



重監房資料館 部長 黒尾 和久さん

ハンセン病とは？
ハンセン病は「らい菌」という細菌に感染することで起こる病気。手足の指先の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあったんだ。でも、らい菌の感染力はとてども弱く、発病することはほとんどない。もしも発病しても、今は早期発見と適切な治療で後遺症が残ることなく完治するんだ。

このシンポジウムの様子は、動画共有サイトYouTubeの「人権チャンネル」でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/jinkenchannel>

知っていますか？
「子どもの人権110番」
いじめや体罰などの困りごと、ひとりでは悩まないで相談してね。

子どもの人権110番 (通話料無料)
☎ 0120-007-110

みんなの人権110番
☎ 0570-003-110

女性の人権ホットライン
☎ 0570-070-810

インターネットでも人権相談を受け付けています。
「インターネット人権相談受付窓口」
子ども人権 SOS メール

パソコン・携帯電話・スマートフォン共通 <https://www.jinken.go.jp>

インターネット人権相談 検索
<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>

外国人のための人権相談:
<https://www.moj.go.jp/JINKEN>
● 法務省人権擁護局ホームページ <https://www.moj.go.jp/JINKEN>
● YouTube 法務省チャンネル <https://www.youtube.com/MOJchannel>
● YouTube 人権チャンネル <https://www.youtube.com/jinkenchannel>
● 人権ライブラリー <https://www.jinken-library.jp>

人権啓発動画
ハンセン病問題を知る
～元患者と家族の思い～
隔離政策によって偏見や差別に苦しみがら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるための啓発映像です。
映像はこちらから ▶ https://youtu.be/gPH5b_CdWt0



朝日小学生新聞5段 (170×382)

広告

ハンセン病問題に関する「親と子のシンポジウム」

正しい知識を身に付けて 偏見や差別のない社会へ

明るい未来を作るために ハンセン病問題を考える

11月13日に「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』が開催されたよ。ハンセン病への偏見・差別を解消するためには、正しい知識を身に付けることが大切。この機会にみんなで考えてみよう！



ハンセン病とは？
ハンセン病はらい菌という菌に感染することで起こる病気。手足の両方の神経が麻痺したり、皮膚が変形したりすることがあったり。でも、正しい知識があればとてもよく治療することができるといいます。今は早く発見と適切な治療で後遺症が残ることもなく完治するんだ。

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



狩野 大樹さん
群馬大学
社会福祉学部4年

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



清水 蒼空さん
群馬県中之条町立
八谷中学校3年

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」

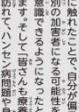
延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



黒尾 和久さん
高崎市長官邸
市長室長

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



坂本 穂子さん
フリーアナウンサー
群馬テレビアナウンサー

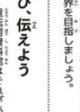
延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



石井 正則さん
群馬県立第一高等学校
校長

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



吉幸 かおるさん
群馬県立第一高等学校
校長

延原 進
「私はハンセン病問題に関心を持って、2001年に『ハンセン病問題』という本を書きました。その中で、ハンセン病は、多くの人分岐的な偏見・差別に苦しんでいます。しかし、想像力を働かせれば、偏見・差別を乗り越え、共に生きていくことができます。」



いじめや体罰などの困りごと、ひとりで悩まないで相談してください。
インターネットでも
人権相談を受け付けています。
インターネット人権相談

インターネットでも
人権相談を受け付けています。
インターネット人権相談

子どもの人権 110番
法務省人権擁護局
全国人権擁護委員連合会